

# Edgewater Family Care Center

## Pacific Medical Associates, PC

### 同意書記入について(1/2)

人間ドックの検査は、これまでの日本における20年以上の歴史の中で、その安全性が確認されてきたもので、日本では被験者と検査施行者の信頼関係で検査が行われています。しかし、ここアメリカでは多くの検査、治療手技に対してその施行にあたって同意書が要求されます。お忙しいところ誠に申し訳ありませんが、下記の内容をよく読んでいただき同意いただければ、ご署名の上、申込書とともに当クリニックまでご返送下さい。尚、同意書のない場合、検査が施行できない場合がありますので、予め御了承下さい。御不明な点がございましたら、遠慮なく当クリニックにご連絡下さい。検査に関しては事故の無いよう万全を尽くして対処いたします。万が一検査施行中に気分が悪くなった場合は、速やかに医師、またはスタッフまでお知らせ下さい。

#### 人間ドックについて

人間ドックは安全性の確立された手技を用い、限られた予算、時間の中で出来得る限りの検査項目に関する検査を行います。従って、検査していない項目、身体の部位については、そこに異常が存在する可能性が常に存在しています。さらに、基準値は多くの正常人の平均を用いていますので、基準値の範囲を軽度はずれていても正常範囲と評価する可能性があります。

#### 心電図

心電図は、心臓が起こす活動電流を、四肢および胸部に装着した電極シールでとらえ、心臓の動きを波形に記録いたします。

#### 胸部 X 線撮影

胸部臓器(心臓、肺、骨格系)のスクリーニングとして行います。放射線を使用し、正面、側面の二方向から撮影します。専門の検査技師が不必要な部位への被爆の回避や、短時間の撮影を心がけます。また女性の方には、胎児への影響を考え、レントゲン撮影承諾のサインを別途頂いております。

#### 血液検査

採血は、原則として左もしくは右上肢を駆血して行います。検査の値は、検査機関によっても正常値に多少違いがあることがあります。

#### 超音波検査を受けられる方

超音波を体に当てた際に、それぞれの臓器や結石などで、その性質の違いによって音波の反射の仕方が違う事を利用して内部の状況をとらえ分析する検査です。検査部位にゼリーを塗った後、超音波装置を用いて施行いたします。安全性が確立されている検査です。腹部臓器では、肝臓、腎臓、胆のう、膵臓、脾臓、腹部大動脈などの臓器を調べます。骨盤内臓では、子宮、卵巣(女性)、前立腺(男性)を検査します。この際、膀胱を充滿させるため水分を十分に取っていただく必要があります。

## 同意書記入について(2/2)

### 消化管 X 線(=バリウム透視)を受けられる方

食道、胃、十二指腸の状態を検査します。食道炎、胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、ポリープなどの診断や、早期癌のスクリーニングに用います。消化管の動きを抑える舌下錠を使用した後、発泡剤、バリウムを飲用し X 線撮影を行います。合併症としては、腸に通過障害がある人は、バリウムによる腸閉塞を起こす可能性があります。また女性の方には、胸部 X 線撮影時と同様、レントゲン撮影承諾のサインを頂いております。

### 胃・食道・十二指腸内視鏡(=胃カメラ)を受けられる方

消化管 X 線(=バリウム透視)同様、食道、胃、十二指腸の状態を検査します。食道炎、胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、ポリープなどの診断や、早期癌のスクリーニングに用います。胃痛、胸焼け、腹部膨満感などの具体的な症状がある方は、内視鏡検査をお勧めいたします。尚、鎮静剤による静脈麻酔は希望者のみに使用いたしますので、当日スタッフにお申し出下さい。静脈麻酔を希望しない方には、咽頭部にのみ局所麻酔剤を使用いたします。合併症としては、鎮静剤による呼吸抑制、薬疹、ショック、胃内視鏡による咽頭部の違和感、検査後の腹部膨満感、また極めて稀に消化管穿孔などが考えられますが、内視鏡専門医が注意深く施行、観察し、合併症が出現した場合最善を尽くし対処いたします。また、必要に応じて粘膜から組織を採って検査機関へ提出します。痛くはありませんが、小さい傷が出来ます。すぐに治りますが、検査当日はアルコールや刺激物は避けていただく必要があります。

### 大腸内視鏡(=大腸カメラ)を受けられる方

肛門、直腸、大腸(S 状結腸、下行結腸、横行結腸、上行結腸)および盲腸を検査し、ポリープ、潰瘍、早期癌などの診断とスクリーニングをします。大腸内視鏡においては全員に鎮静剤による静脈麻酔を使用いたします。大腸内視鏡の検査にあたっては、前処置のために下剤を使用いたします。また、食事制限もございます。合併症としては、胃カメラ同様、鎮静剤による呼吸抑制、薬疹、ショック、下剤による軽い脱水症状、検査後の腹部膨満感、また極めて稀に消化管穿孔などが考えられますが、内視鏡専門医が注意深く施行、観察し、合併症が出現した場合最善を尽くし対処いたします。また、胃カメラ同様、必要に応じて腸粘膜から組織を採って検査機関へ提出します。痛くはありませんが、小さい傷ができます。すぐに治りますが、検査当日はアルコールや刺激物は避けていただく必要があります。

### 婦人科検診を受けられる方

双手診(内診)では、子宮や卵巣の大きさを検査し、子宮筋腫や卵巣嚢腫などの有無を調べます。細胞診(PAP smear)では、子宮頸部の細胞を採取し、子宮頸がんのスクリーニングをいたします。局所からの軽度の出血の可能性があります。短時間にて止血いたします。